

令和5年度

仙北市

「全国学力・学習状況調査」

結果分析・改善委員会

報 告 書

令和5年12月

目 次

I	報告書の作成にあたって	1
II	調査の概要	2
1	調査の目的	2
2	実施主体	2
3	参加主体	2
4	調査の対象	2
5	調査事項及び手法	2
6	調査の方式	3
7	調査期日	3
8	5月27日に調査を実施した児童生徒数・学校数	3
III	結果	4
1	教科に関する調査の結果	4
(1)	概要	4
(2)	設問分類・区分別集計結果から	6
(3)	各設問の集計結果から	10
2	児童生徒質問紙調査の結果	13
(1)	概要	13
(2)	小学校6年生にみられる望ましい傾向	13
(3)	小学校6年生にみられる課題とされる傾向	14
(3)	中学校3年生にみられる望ましい傾向	16
(5)	中学校3年生にみられる課題とされる傾向	18
(6)	仙北市の目指す子ども像に関わる3年間の比較	19
3	学校質問紙調査の結果	21
(1)	小学校	21
(2)	中学校	22
IV	改善の方法	23
1	全体的な取組として	23
(1)	指導改善の具体策	23
(2)	各中学校区の情報交換から	25
(3)	共通実践すべき具体的方策	26
2	学年・教科・区分・設問ごとの具体的な改善の方策	26
3	改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について	27
V	参考資料	28
資料1	「全国学力・学習状況調査」結果取扱要綱	28

I 報告書の作成にあたって

本報告書は、「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」に則って作成した。
報告書作成の基本的な立場については「第2条（結果の公表）」に基づき、また、その内容については、「第4条（改善策の立案）」の規定に従っている。

（結果の公表）

第2条

仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1) 教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2) 本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3) 本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4) 本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5) 本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

（改善策の立案）

第4条

結果を受けた改善策は仙北市教育委員会北浦教育文化研究所「研究主任部会」及び「算数・数学学習指導研究委員会」、「国語学習指導研究委員会」、「英語学習指導研究委員会」に研究推進アドバイザーを加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1) 主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2) 主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3) 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4) その他

以上の点を踏まえて、仙北市教育委員会が仙北市民に対する説明責任を果たし、学校の教育及び教育委員会の教育施策の改善に資することを目的として本報告書を作成した。

Ⅱ 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施主体 文部科学省

3 参加主体 市町村教育委員会

4 調査の対象

【小学校調査】

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

【中学校調査】

中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、
中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

5 調査事項及び手法

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語（中学校）〕

国語、算数・数学、英語はそれぞれの（ア）と（イ）を一体的に出題。

（ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、
実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等

（イ）知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

② 学校に対する調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

6 調査の方式 悉皆調査

7 調査期日 令和5年4月18日（火）
※英語「話すこと」に関する調査は別日

8 4月18日に調査を実施した児童生徒数・学校数

小学校児童数	児 童 数（人）		
	国語	算数	質問紙
全国（公立）	964,177	964,350	
秋田県（公立）	6,148	6,146	
仙北市教育委員会	174	174	174

中学校生徒数	生 徒 数（人）			
	国語	数学	英語	質問紙
全国（公立）	892,738	893,114	893,528	
秋田県（公立）	6,395	6,397	6,390	
仙北市教育委員会	177	177	177	177

調査実施校数	4月18日に調査を実施した小学校 義務教育学校前期課程 特別支援学校小学部	4月18日に調査を実施した中学校 義務教育学校後期課程 中等教育学校前期課程 特別支援学校中学部
全国（公立）	18,619校	9,339校
全国（国立）	75校	78校
全国（私立）	127校	285校
合計	18,821校	9,702校
仙北市教育委員会	6校	5校

Ⅲ 結果

- ※ 本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が国語、算数・数学、英語の3教科であり、また、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではない。従って、本調査の結果については児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校等における教育活動の一側面にすぎないことに留意する必要がある。
- ※ 「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」第2条に基づき、教科に関する調査結果の数値による公表は行わない。〈表2〉の階層区分と表現による公表としている。

1 教科に関する調査の結果

(1) 概要

本調査における全国調査校（以下、全国）及び秋田県調査校（以下、秋田県）の平均正答率と仙北市調査校（以下、仙北市）の平均正答率を、小学校6年国語・算数、中学校3年国語・数学・英語のそれぞれで比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

【成果】

- ① 国及び秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、〈表1〉にあるように、仙北市の小学校6年生の国語・算数の学習状況は「概ね満足できる状況」である。
- ② 国及び秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、〈表1〉にあるように、中学校3年生の国語・数学の学習状況は「概ね満足できる状況」である。

【課題】

- ① 秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、小学校6年生算数において仙北市が若干下回っている。
- ② 国の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、中学校3年生国語、数学において仙北市が下回っている。
- ③ 国および秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、中学校3年生英語において仙北市が大きく下回っている。

〈表 1〉：全国及び秋田県の平均正答率との比較（教科別）

学年	教科等	区分	平均正答率	仙北市の状況
小学校 6 年	国語	全国(公立)	67.2%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	72%	概ね満足できる状況
	算数	全国(公立)	62.5%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	65%	概ね満足できる状況
中学校 3 年	国語	全国(公立)	69.8%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	74%	概ね満足できる状況
	数学	全国(公立)	51.0%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	52%	概ね満足できる状況
	英語	全国(公立)	45.6%	改善が必要な状況
		秋田県(公立)	44%	改善が必要な状況

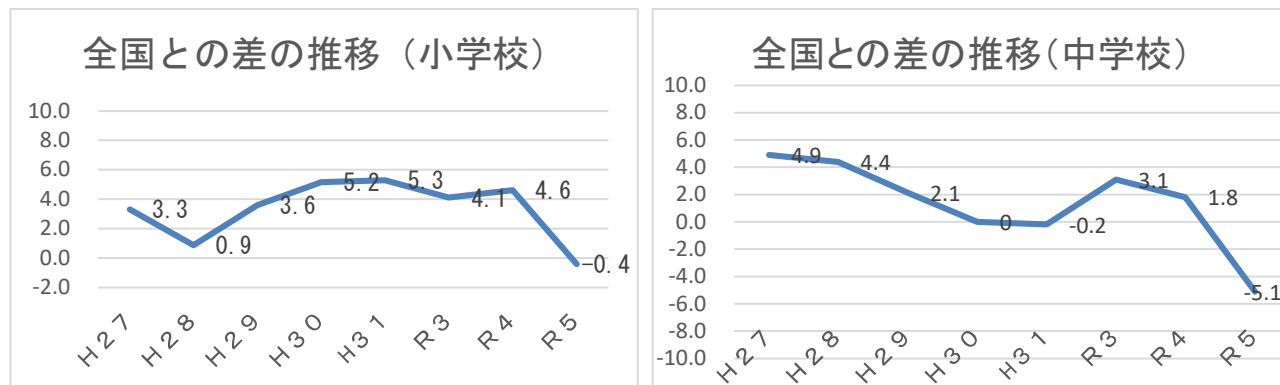
※〈表 1〉の「仙北市の状況」は、国及び県の平均正答率と比較し、〈表 2〉の表現にしたがって示した。

〈表 2〉：〈表 1〉の「仙北市の状況」に係る階層区分と表現（以下の表同じ）

	階層区分	表現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6%以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6%未満～-6%より大きい状況であるもの	概ね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が -6%以下であるもの	改善が必要な状況

※〈表 2〉は「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」第 3 条（別表 2）による。

〈グラフ 1〉：全国と仙北市との平均正答率の差の推移（実施した全教科の平均）



(2) 設問分類・区分別集計結果から

本調査における設問を「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」で分類し、全国及び秋田県と仙北市の平均正答率を比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

【成果】

- ① 全国と仙北市の平均正答率の比較では、小学校6年の国語、算数と中学校3年の国語において、全ての区分で「概ね満足できる状況」あるいは「十分満足できる状況」である。
- ② 同様に全国と仙北市の平均正答率の比較からは以下のことが言える。
 - ア) 小学校6年国語では、ほとんどの区分において全国の平均正答率を上回っており、「指導要領の内容」の「話すこと・聞くこと」、「問題形式」の「短答式」が「十分満足できる状況」にある。
 - イ) 小学校6年算数では、「指導要領の領域」の「データの活用」において、「十分満足できる状況」である。
 - ウ) 中学校3年国語では、「指導要領の内容」の「我が国の言語文化に関する事項」、「評価の観点」の「知識・技能」、「問題形式」の「短答式」が全国の平均正答率を上回っている。
 - エ) 中学校3年数学では、「指導要領の領域」の「データの活用」が全国の平均正答率を上回っている。
 - オ) 中学校3年英語では、「指導要領の領域」の「聞くこと」において、「概ね満足できる状況」にある。
- ③ 秋田県と仙北市の平均正答率の比較からは以下のことが言える。
 - ア) 小学校6年国語では、ほとんどの区分において、「概ね満足できる状況」である。
 - イ) 小学校6年算数では、ほとんどの区分において、「概ね満足できる状況」である。
 - ウ) 中学校3年国語では、ほとんどの区分において、「概ね満足できる状況」である。
 - エ) 中学校3年数学では、「指導要領の領域」の「データの活用」が県の平均正答率を上回っている。
 - オ) 中学校3年英語では、「指導要領の領域」の「聞くこと」、「問題形式」の「記述式」において、「概ね満足できる状況」にある。

【課題】

- ・ 秋田県と仙北市の平均正答率を比較した場合、次のような課題がある。
 - ア) 小学校6年国語では、全ての区分で県平均正答率を下回っており、「学習指導要領の内容」の「情報の扱い方に関する事項」について改善が必要な状況である。
 - イ) 小学校6年算数では、全ての区分で県平均正答率を下回っており、「問題形式」の「記述式」について改善が必要な状況である。
 - ウ) 中学校3年国語では、全ての区分で県平均正答率を下回っており、「学習指導要領の内容」の「読むこと」、「問題形式」の「記述式」について改善が必要な状況である。
 - エ) 中学校3年数学では、「学習指導要領の領域」の「数と式」「図形」「関数」、「評価の観点」の「知識・技能」、「問題形式」の「選択式」「短答式」について改善が必要な状況である。
 - オ) 中学校3年英語では、全ての区分で県平均正答率を下回っており、ほとんどの区分で改善が必要な状況である。

〈表 3－(1)〉：「小学校 6 年国語」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 の要 内領 容	言葉の特徴や使い方に関する事項（知・技）	5	74.4	71.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	情報の扱い方に関する事項（知・技）	2	66.5	63.4	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	我が国の言語文化に関する事項（知・技）	0				
	話すこと・聞くこと（思・判・表）	3	80.1	72.6	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	書くこと（思・判・表）	1	30.1	26.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと（思・判・表）	3	76.6	71.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 点の	知識・技能	7	72.1	68.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	思考・判断・表現	7	71.4	65.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題 形式	選択式	9	77.2	73.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	2	67.6	62.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	3	58.2	51.1	概ね満足できる状況	十分満足できる状況

〈表 3－(2)〉：「小学校 6 年算数」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 の要 領 域	A 数と計算	6	69.1	67.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	B 図形	4	50.0	48.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	C 測定	0				
	C 変化と関係	4	71.7	70.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	D データの活用	3	73.1	65.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
評価 点の	知識・技能	9	69.7	67.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	思考・判断・表現	7	59.2	56.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題 形式	選択式	5	60.7	57.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	7	76.3	74.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	4	50.9	47.3	改善が必要な状況	概ね満足できる状況

〈表 3－(3)〉：「中学校 3 年国語」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立) %	全国平均正答率 (公立) %	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 の要 内領 容	言葉の特徴や使い方に関する事項 (知・技)	2	70.8	67.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	情報の扱い方に関する事項 (知・技)	2	66.3	63.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	我が国の言語文化に関する事項 (知・技)	3	83.3	74.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	話すこと・聞くこと (思・判・表)	3	86.4	82.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書くこと (思・判・表)	2	65.9	63.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと (思・判・表)	4	68.4	63.7	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
評価 点の	知識・技能	7	74.9	69.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	思考・判断・表現	9	73.8	69.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題 形式	選択式	7	75.4	73.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	4	71.6	65.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	4	74.5	68.0	改善が必要な状況	概ね満足できる状況

〈表 3－(4)〉：「中学校 3 年数学」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立) %	全国平均正答率 (公立) %	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	A 数と式	5	64.7	63.0	改善が必要な状況	改善が必要な状況
	B 図形	3	32.6	33.2	改善が必要な状況	改善が必要な状況
	C 関数	4	52.8	51.2	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	D データの活用	3	49.2	48.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 点の	知識・技能	10	55.5	55.7	改善が必要な状況	改善が必要な状況
	思考・判断・表現	5	45.1	41.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題 形式	選択式	4	43.0	45.3	改善が必要な状況	改善が必要な状況
	短答式	6	63.8	62.6	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	記述式	5	45.1	41.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

〈表 3－(5)〉：「中学校 3 年英語」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立) %	全国平均正答率 (公立) %	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 の要 領 域	(1) 聞くこと	6	56.5	58.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	(2) 読むこと	6	51.5	51.2	改善が必要な状況	改善が必要な状況
	(3) 話すこと(やり取り)	0				
	(4) 話すこと(発表)	0				
	(5) 書くこと	5	20.2	23.4	改善が必要な状況	改善が必要な状況
評 価 点 の	知識・技能	9	50.0	51.5	改善が必要な状況	改善が必要な状況
	思考・判断・表現	8	37.3	38.8	改善が必要な状況	改善が必要な状況
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問 題 形 式	選択式	12	54.0	54.8	改善が必要な状況	改善が必要な状況
	短答式	3	26.1	30.1	改善が必要な状況	改善が必要な状況
	記述式	2	11.5	13.5	概ね満足できる状況	改善が必要な状況

(3) 各設問の集計結果から

ここでは、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について、設問ごとの結果から改善のために検討の余地があるもののうち、仙北市の研究テーマである「言語活動の充実」に関わるものについて示す。

①小学校6年「国語」について

☆「設問番号1二」

「【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く」では、「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の内容」では「書くこと」、「評価の観点」では「思考・判断・表現」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

図4-4

図4-3

<指導の改善点>

- ◆ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるようにする。

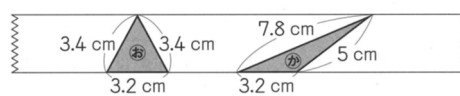
②小学校6年「算数」について

☆「設問番号2（4）」

「テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く」では、「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「図形」、「評価の観点」では「思考・判断・表現」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

- (4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- ㊸の面積のほうが大きい。
- ㊹の面積のほうが大きい。
- ㊸と㊹の面積は等しい。
- ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

<指導の改善点>

- ◆ 底辺と高さの関係に注目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できるようにする。

③中学校3年「国語」について

☆「設問番号4三」

「現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く」では、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の内容」では「読むこと」、「評価の観点」では「思考・判断・表現」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

<指導の改善点>

- ◆文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

三 学校図書で見た「竹取物語」の一部は、古典の作品である「竹取物語」に、作家の足新が上を加えて現代語で書いたものです。ところが、どのように工夫されていると考えられますか。『授業で読んだ「竹取物語」』の一部の表現を取り上げて、あなたの考えを書きなさい。

なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてかまいません。

原文

今昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつゝ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきの翁となひいける。その竹の中に、もろなる竹なむ「筋ありける、あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてあり。

現代語訳

今ではとも昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。名前を、さぬきの翁のみやつことになった。その竹の中に、根もとの光る竹が「あった。不思議に思つて、近寄つて見ると、筒の中が光っている。それを見れば、三寸ほどの人が、とてもかわいらしい様子で座っている。

学校図書で見た「竹取物語」の一部

むかし、竹取の翁といふ人がある。名はミヤツ。時には、鹿の造、鹿の造、もつとらしく名乗たりする。野や山に分け入って、竹を取つて、さまざまの用を作る。

ある日、竹の林のなかで、一本の光る竹をみつけた。ふしぎなことに、そばへ寄つてよく見ると、竹の筒のなかに見える。その部分で、ていねいに割つてみる。手なれた仕事だ。なかに、手のひらに乗るような小さな女の子が、すわっていた。まことに、かわいらしい。

（『授業で読んだ「竹取物語」』による）

中国-17

④中学校3年「数学」について

☆「設問番号6（3）」

「はじめの数にかけられる数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する」では、「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明すること」に課題がある。

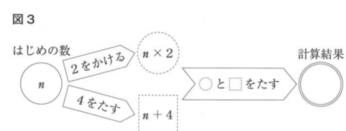
この設問は「学習指導要領の領域」では「数と式」、「評価の観点」では「思考・判断・表現」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

<指導の改善点>

- ◆予想した事柄が成り立つかどうかを具体的な数や文字式を用いて調べることができるようにする。

(3) 夏希さんは、7ページの図1の「2をかける」のかけ数「2」は変えずに、「3をたす」のたす数「3」を4の倍数である「4」や「8」に変えれば、計算結果がいつでも4の倍数になると考えました。そして、はじめの数としてどんな整数を入れても「はじめの数にかけられる数が2、たす数が4ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる」と予想しました。

そこで、夏希さんは、はじめの数として入れる整数を n とし、次の図3をかき、下のように計算しました。



夏希さんの計算

はじめの数として入れる整数を n とすると、はじめの数に2をかけた数は $n \times 2$ 、4をたした数は $n + 4$ と表される。計算結果は、

$$\begin{aligned} & n \times 2 + (n + 4) \\ &= 2n + n + 4 \\ &= 3n + 4 \end{aligned}$$

計算結果が $3n + 4$ となることから、はじめの数としてどんな整数を入れても「はじめの数にかけられる数が2、たす数が4ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる」という予想は成り立たないことがわかります。

上の夏希さんの計算をもとに考えたとき、はじめの数にかけられる数がいくつ、たす数がいくつならば、計算結果はいつでも4の倍数になると予想できますか。「～ならば、……になる」という形で書きなさい。

⑤中学校3年「英語」について

☆「設問番号8（2）」

「ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く」では、「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くこと」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと」、「評価の観点」では「思考・判断・表現」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

<指導の改善点>

- ◆ 読んだことを基に自分の考えとその理由を書くことができるようにする。

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



(注) plate: 皿 even if ~: たとえ~だとしても
apartment: アパート agree with: ~に賛成する

(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

2 児童生徒質問紙調査の結果

(1) 概要

本調査における児童生徒質問紙調査について、仙北市の特に顕著な傾向がみられるものについて示す。

全国及び秋田県の状況と比較した場合、仙北市の小学校6年生と中学校3年生は、若干の課題はみられるものの、全体としては望ましい傾向にあると言える。

特に「規範意識の向上」「地域や社会との関わり」「ICT機器の活用」に肯定的な回答率が高い傾向が見られた。

(2) 小学校6年生にみられる望ましい傾向

※ 「肯定的回答率」の高い質問

小学校6年生の質問事項59項目に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合）が、92%を超えた質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問番号	質問事項	肯定的回答率
1	(30)	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	98.8
2	(9)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.5
3	(11)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.0
4	(44)	国語の勉強は大切だと思いますか	94.9
5	(52)	算数の勉強は大切だと思いますか	93.1
6	(6)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	92.5
6	(46)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.5
8	(1)	朝食を毎日食べていますか	92.0
8	(63)	人が困っているときは、進んで助けていますか	92.0

※ 全国との比較から

児童質問紙調査のうち、全国の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+5ポイント以上のものは次の表のとおりである。（県の割合との比較は参考のために示した。）

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率	全国 比較	県 比較
1	(40)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	85.6	+8.4	-1.4
2	(16)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	78.7	+8.0	-7.0
3	(28)	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	85.7	+7.6	-0.4
4	(25)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	63.3	+5.5	-6.5
5	(23)	新聞を読んでいますか	17.8	+5.2	+1.6
6	(7)	将来の夢や目標を持っていますか	86.7	+5.2	-1.1

※ 秋田県との比較から

児童質問紙調査のうち、秋田県の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+5ポイント以上のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率	県比較
		※県比較+5ポイント以上の質問なし		

(3) 小学校6年生にみられる課題とされる傾向

※ 「肯定的回答率」の低い質問

小学校6年生の質問事項59項目に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合）が、30%未満の質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率
1	(23)	新聞を読んでいますか	17.8

※ 全国との比較から

児童質問紙調査のうち、全国の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－8ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率	全国比 較
1	(58)	これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか	36.8	-9.7
2	(57)	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	43.1	-9.4
3	(56)	英語の勉強は大切だと思いますか	82.7	-8.6
4	(45)	国語の授業の内容はよく分かりますか	77.6	-8.1
5	(24)	読書は好きですか	63.8	-8.0

※秋田県との比較から

児童質問紙調査のうち、秋田県の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－10ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率	県比較
1	(57)	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	43.1	-12.7
2	(34)	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	70.7	-12.1
3	(45)	国語の授業の内容はよくわかりますか	77.6	-12.0
4	(13)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	71.3	-11.7
5	(27)	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思っていますか	66.7	-11.5
6	(55)	英語の勉強は好きですか	64.9	-10.6
7	(56)	英語の勉強は大切だと思いますか	82.7	-10.4
8	(24)	読書は好きですか	63.8	-10.3
9	(33)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	74.2	-10.0

(4) 中学校3年生にみられる望ましい傾向

※ 「肯定的回答率」の高い質問

中学校3年生の質問事項72項目に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合）が、92%を超えた質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率
1	(34)	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	99.5
2	(9)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98.4
3	(11)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.7
4	(48)	国語の勉強は大切だと思いますか	96.6
5	(5)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	94.9
6	(6)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	94.4
7	(70)	1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか	93.8
8	(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	93.2
9	(50)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	93.2
10	(1)	朝食を毎日食べていますか	92.6
10	(72)	1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか	92.6

※ 全国との比較から

生徒質問紙調査のうち、全国の中学校3年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校3年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+13ポイント以上のものは次の表のとおりである。（県の割合との比較は参考のために示した）

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率	全国 比較	県 比較
1	(29)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	65.0	+27.0	+18.9

2	(47)	国語の勉強は好きですか	82.4	+21.0	+8.4
3	(32)	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいですか	83.6	+20.4	+5.8
4	(16)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	75.1	+20.1	+4.5
5	(30)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	82.5	+18.6	+2.1
6	(7)	将来の夢や目標を持っていますか	83.6	+17.3	+8.7
7	(53)	国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていますか	77.4	+13.5	+0.6
8	(72)	1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか	92.6	+13.3	+6.4
9	(52)	国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫していますか	79.1	+13.2	+2.1
10	(51)	行書の基礎的な書き方（「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」など）を理解して書いていますか	80.3	+13.1	+3.2

秋田県との比較から

生徒質問紙調査のうち、秋田県の中学校3年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校3年生の肯定的回答の割合を比較して、差が＋5ポイント以上のものは次の表のとおりである。

NO	質問番号	質問事項	肯定的回答率	県比較
1	(29)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	65.0	+18.9
2	(7)	将来の夢や目標を持っていますか	83.6	+8.7
3	(47)	国語の勉強は好きですか	82.4	+8.4
4	(72)	1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか	92.6	+6.4
5	(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	77.9	+6.2

6	(32)	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	83.6	+5.8
7	(61)	英語の授業の内容はよく分かりますか	74.0	+5.7

(5) 中学校3年生にみられる課題とされる傾向

※ 「肯定的回答率」の低い質問

中学校3年生の質問事項72項目に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合）が、30%未満の質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問番号	質問事項	肯定的回答率
1	(23)	新聞を読んでいますか	12.4
2	(64)	これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか	27.7

※ 全国との比較から

生徒質問紙調査のうち、全国の中学校3年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校3年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－8ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問番号	質問事項	肯定的回答率	全国比較
		※全国比較－8ポイント以下の質問なし		

※ 秋田県との比較から

生徒質問紙調査のうち、秋田県の中学校3年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校3年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－10ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問番号	質問事項	肯定的回答率	県比較
		※県比較－10ポイント以下の質問なし		

(6) 仙北市学校教育目標に関わる事項の経年比較

仙北市の学校教育目標に関わる「地域・家庭との連携」「自己有用感」についての直近3年間の肯定的回答率の変化を次に示す。

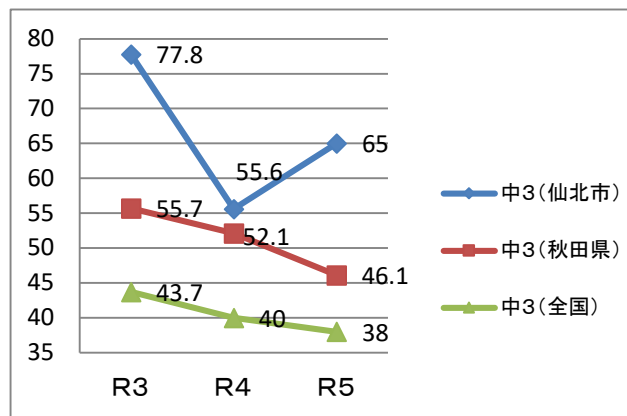
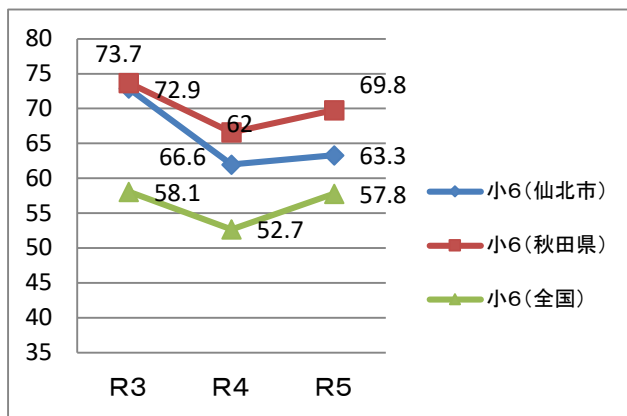
学校教育目標

「ふるさとを愛し、豊かな心・確かな学力・健やかな体をもち、

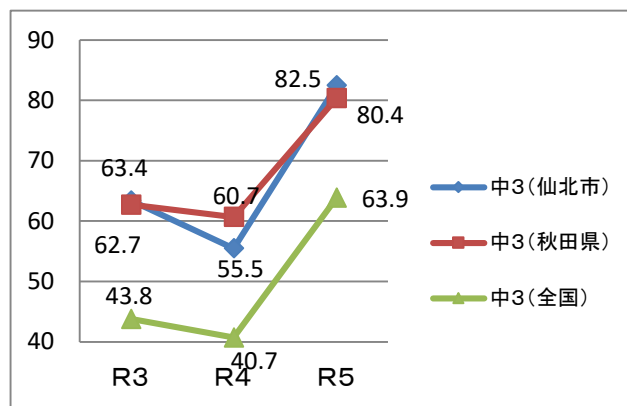
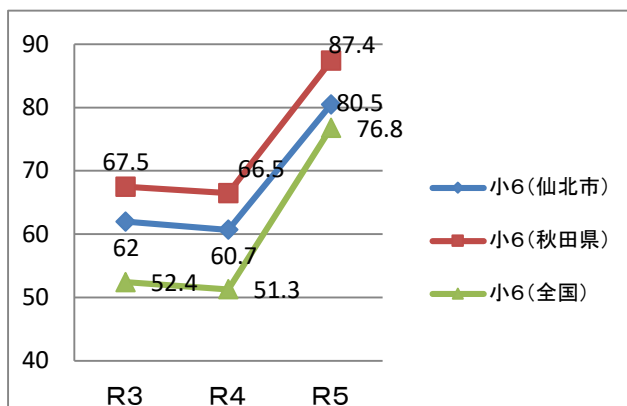
未来の地域や社会を支える意欲と高い志にあふれる仙北の子ども」の育成

～「骨太の人間の育成」「仙北市プライドの醸成」～

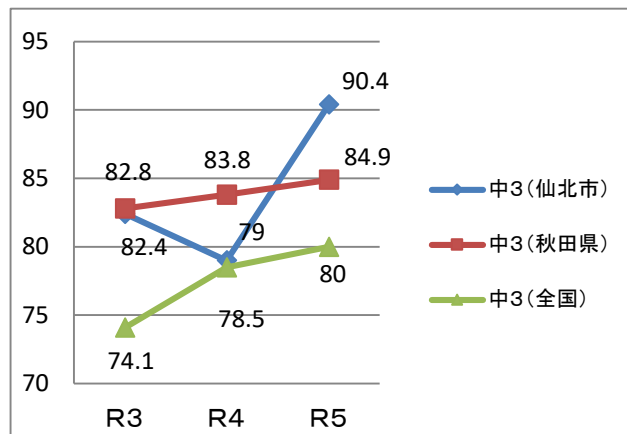
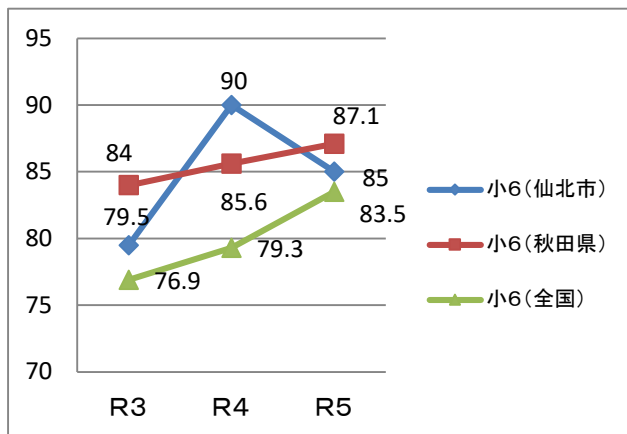
☆今住んでいる地域の行事に参加していますか



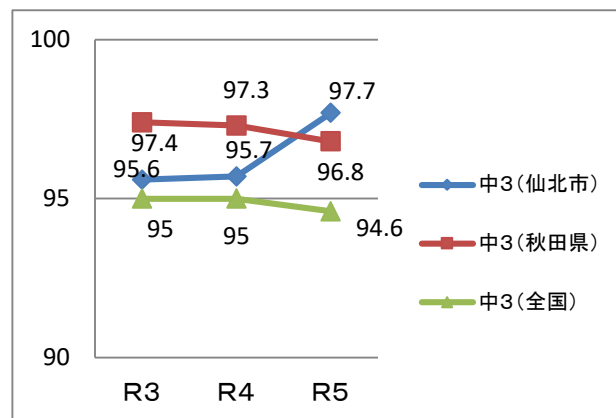
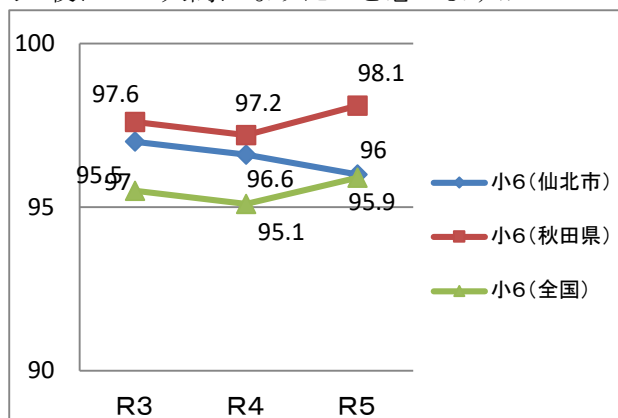
☆地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることはありますか



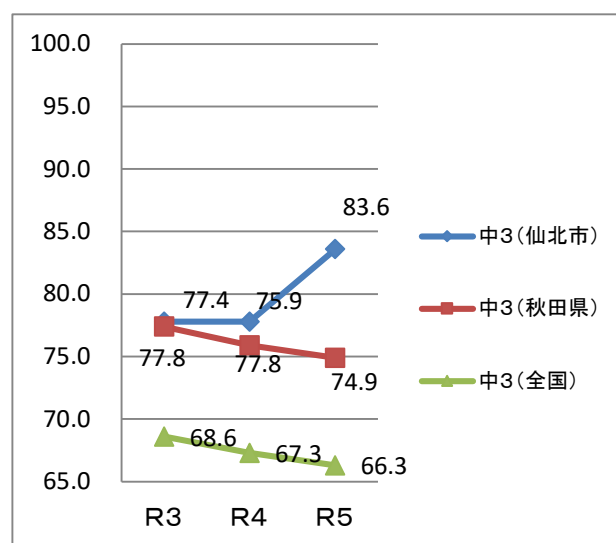
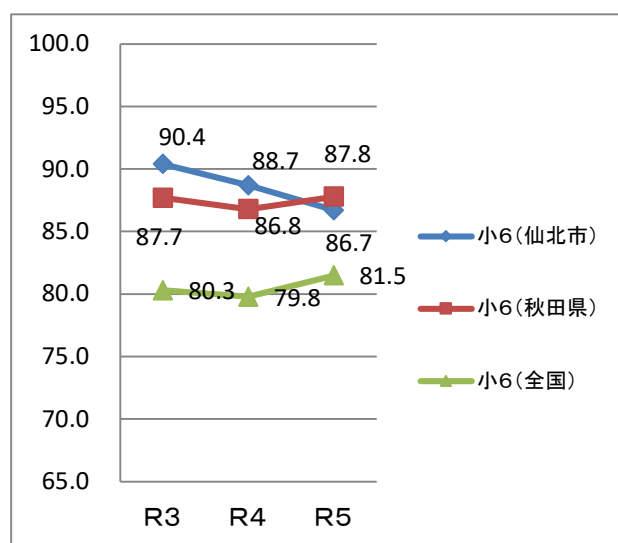
☆自分には、よいところがあると思いますか



☆人の役に立つ人間になりたいと思いますか

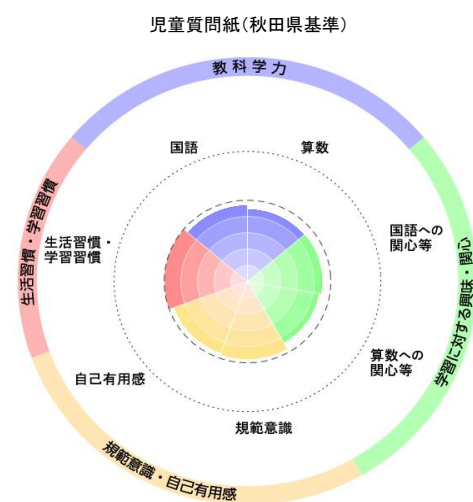
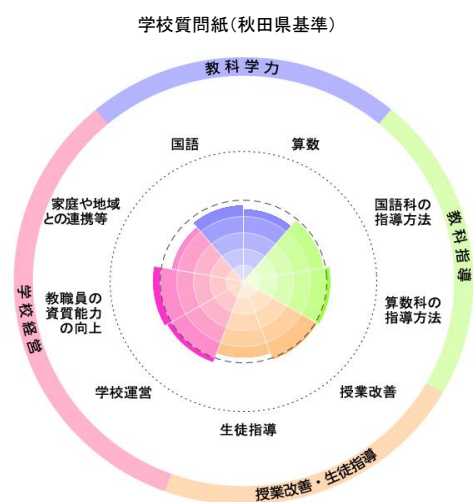
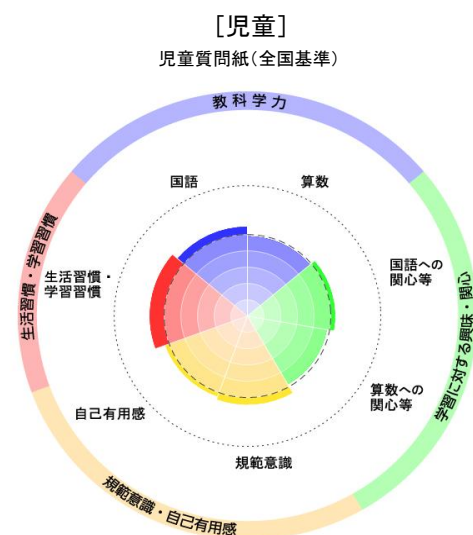
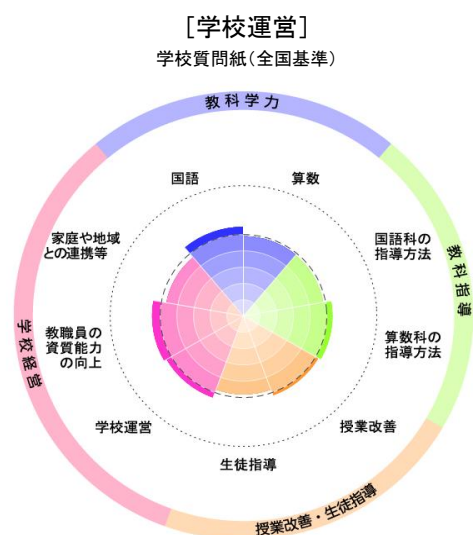


☆将来の夢や目標を持っていますか



3 学校質問紙・児童質問紙・学力テスト結果のチャート図

(1) 小学校



＜令和5年度調査の領域名と学校質問紙の質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	小学校学校質問紙 対応領域・項目番号
I	1 教科学力	国語
	2	算数
II	3 教科指導	国語科の指導方法 (42)～(45)
	4	算数科の指導方法 (46)～(48)
III	5 授業改善・生徒指導	授業改善 (26)～(36)
	6	生徒指導 (8)～(13)
IV	7 学校経営	学校運営 (18)～(20)(79)
	8	教職員の資質能力の向上 (22)～(24)
	9	家庭や地域との連携等 (70)～(74)

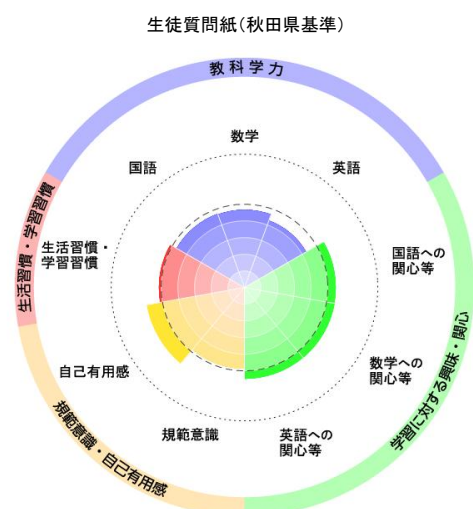
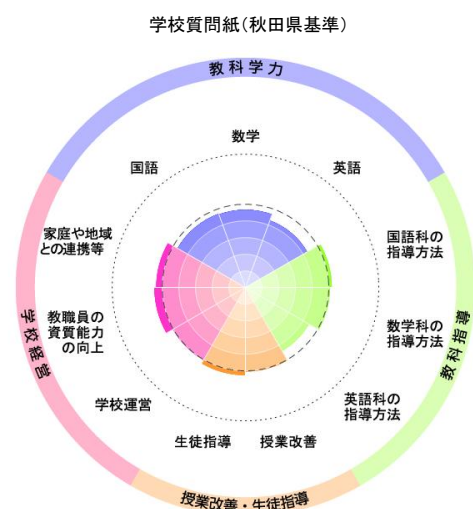
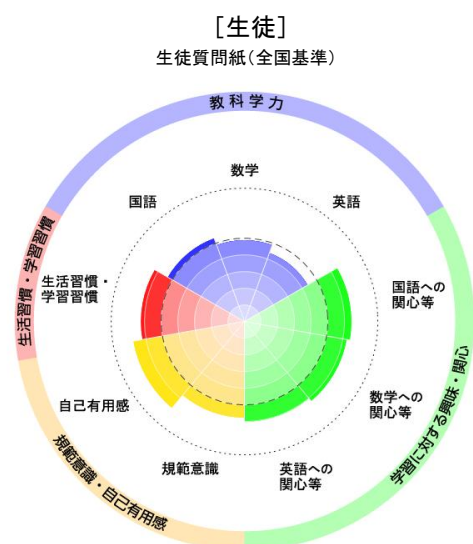
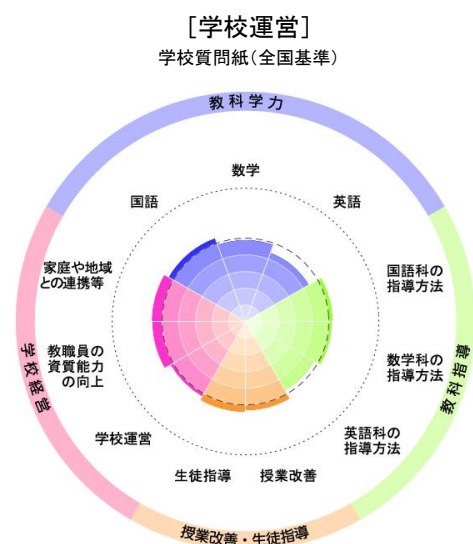
※領域番号1～2については、各教科の全国平均正答率を基準として比較したものである。
※領域番号3～9については、「小学校学校質問紙対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

＜令和5年度調査の領域名と児童質問紙の質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	小学校児童質問紙 対応領域・項目番号
I	1 教科学力	国語
	2	算数
II	3 学習に対する興味・関心	国語への関心等 (43)～(46)
	4	算数への関心等 (51)～(54)
III	5 規範意識・自己有用感	規範意識 (8)(9)(11)
	6	自己有用感 (4)(5)(7)
IV	7 生活習慣・学習習慣	生活習慣・学習習慣 (1)～(3)(16)～(18)

※領域番号1～2については、各教科の全国平均正答率を基準として比較したものである。
※領域番号3～7については、「小学校児童質問紙対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

(2) 中学校



＜令和5年度調査の領域名と学校質問紙の質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	中学校学校質問紙 対応領域・項目番号
I	教科学力	国語
		数学
		英語
II	教科指導	国語科の指導方法 (42)～(45)
		数学科の指導方法 (46)～(48)
		英語科の指導方法 (49)～(55)
III	授業改善・ 生徒指導	授業改善 (26)～(36)
		生徒指導 (8)～(13)
IV	学校経営	学校運営 (18)～(20)(87)
		教職員の資質能力の向上 (22)～(24)
		家庭や地域との連携等 (78)～(82)

※領域番号1～3については、各教科の全国平均正答率を基準として比較したものである。
※領域番号4～11については、「中学校学校質問紙対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

＜令和5年度調査の領域名と生徒質問紙の質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	中学校生徒質問紙 対応領域・項目番号
I	教科学力	国語
		数学
		英語
II	学習に対する 興味・関心	国語への関心等 (47)～(50)
		数学への関心等 (55)～(58)
		英語への関心等 (59)～(62)
III	規範意識・ 自己有用感	規範意識 (8)(9)(11)
		自己有用感 (4)(5)(7)
IV	生活習慣・ 学習習慣	生活習慣・学習習慣 (1)～(3)(16)～(18)

※領域番号1～3については、各教科の全国平均正答率を基準として比較したものである。
※領域番号4～9については、「中学校生徒質問紙対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

Ⅳ 改善の方法

1 全体的な取組として

(1) 指導改善の具体策

教科に関する調査、児童生徒質問紙から見てきた仙北市の課題を解決するために、それぞれの部会で出された具体策を次に示す。

<①小学校国語部会で出された具体策>

◇必要な力

- ・要約する力
- ・要旨を的確に捉える力
- ・二つの資料からコンパクトに考察する力
- ・教科横断的な読み取り能力（グラフの読み取り）

◇力をつけていくための取組

- ・字数を制限して書くことを日常的に行う
- ・普段の授業の振り返りを字数制限して書かせる
- ・資料から読み取ったこと、気づいたことをメモする
- ・国語＝縦書きという概念からの脱却→横書きの文章に慣れさせる

<②中学校国語部会で出された具体策>

◇必要な力

- ・根拠を明確にして自分の考えをまとめる力（経験）

◇力をつけていくための取組

- ・口頭での発表に終わらず、書いて文章にまとめさせる
- ・多様な意見を引き出す受容的な雰囲気での授業を行う
- ・キーワード・キーセンテンスをつないで文章化する学習、比較させる学習、作品を俯瞰して分析する学習など、多様な学びの形態の工夫
- ・古典でも自分の考えを書かせる学習等を大切に授業を構築する

<③小学校算数部会で出された具体策>

◇必要な力

- ・「テープ幅が一定＝高さが同じ」に気づく力
- ・数値がなくても「どこが高さか」を考えられる力
- ・「どこに注目するのか」気づく力

◇力をつけていくための取組

- ・面積が同じで違う形の三角形を作図する経験
- ・丁寧に説明を書く取組
- ・他者説明の機会の増加
- ・たくさんの図形に触れ、特徴等をまとめたり、発表したりする経験

<④中学校数学部会で出された具体策>

◇必要な力

- ・問題解決の過程や結果を振り返って考え、新たな法則を見いだす力

◇力をつけていくための取組

- ・働かせたい見方・考え方を焦点化する
- ・条件を変えて解き直す経験をさせる
- ・条件によっては成立しない事柄を生徒から引き出す

連続した3つの整数の和→3の倍数

連続した5つの整数の和→5の倍数

連続した4つの整数の和は4の倍数にならない！ 等

- ・ゴールから修正する経験を積ませる

◇知識・技能の定着に向けて

- ・基礎テストなどの機会を活用しながら同じ問題に繰り返し取り組ませる
- ・正確な計算ができるようにドリル学習をさせる

<⑤中学校英語部会で出された具体策>

◇必要な力

- ・社会的話題に対する知識 ・まとまりのある英文に対する耐性

◇力をつけていくための取組

- ・社会的な話題について伝え合う活動（話す・書く）
- ・自分の考えをもつ→教科書の話題について自分の考えをまとめる時間の確保
- ・長い文章を読み取る時間の確保
- ・KODOMO新聞を読む機会を作る
- ・内容理解で取り上げることを選んで、読んだことについて考えをまとめ、ペアで伝え合う等の場面を継続的に設定する
- ・パラフレーズでたくさん言い換える経験が必要

注）パラフレーズ→優しい言い方で簡潔に表現すること

◇知識・技能の定着に向けて

- ・自分の考えやその理由を伝える際の表現方法を知る→その繰り返し
- ・スモールトークをビルドアップ
- ・定型表現の定着に向けたリピート学習
- ・帯活動、ウォームアップの運用方法の見直し

<⑥小学校研究主任会で出された具体策>

- ・言語活動の充実について

①教師が「対話のねらい」を明確にもつ

②児童にも「対話のねらい」を意識させる

③「書く」活動を省かない

- ・学習の振り返りについて
 - ①振り返りの視点を明示する
 - ②自己の変容について振り返る機会を増やす
- ・基礎・基本の定着に向けて
 - ①授業で切り返しの質問を投げかける
 - ②基礎テスト（漢字・計算）を実施する
 - ③わか杉思考コンテスト等への挑戦を促す

＜⑦中学校研究主任会で出された具体策＞

- ・授業内での実践について
 - ①一問一答形式でない発問を工夫する
 - ②基本の話型に沿った発表への支援をする
 - ③教師がコーディネーターとなり、生徒主体で課題解決を図る授業の構築をする
- ・生徒指導の実践上の視点を生かす
 - ①安心・安全な風土づくりをする
 - 言語活動の充実に不可欠な「何でも話せる雰囲気」の醸成
 - ②授業に集中できる机上環境の整理をする
 - ③相互評価の場面を設定する
- ・語彙力アップに向けて
 - ①N I E への取組を促進する
 - ②言語活動の系統表の作成と指導の充実を図る

（２） 各中学校区の情報交換から

各校の課題及びその改善に向けた取組について、中学校区毎に情報交換を行った。共通する成果、課題を洗い出し、課題に対して、９年間を見通した対応策を話し合った。

△共通する課題『生徒指導面』

- ①他と違う意見に不安を感じる児童・生徒が多い
- ②主体的に学ぶ姿勢が足りない
- ③自己表現が苦手

○対応策

- ①他と違う意見に対する価値付けをする
- ②学習規律の徹底と魅力ある授業構築をする
- ③小・中連携で取り組めることを増やす（授業・集会・あいさつ運動など）

△課題『学習指導面』

- ①活字に触れる機会の不足
- ②基礎学力の定着
- ③授業で学んだこと生活の中で活用する能力

○改善策

- ①中学生から小学生へのおすすめの本の紹介をする
読み聞かせの機会を増やす
- ②授業内で「定着の時間を確保する」
個別最適な学習の推進を図る（ICTを活用して）
- ③教科横断的な学習の推進を継続する

学習指導面の課題を話し合う中で、どの中学校区でも「読解力・表現力」の向上について話題になった。

（３） 共通実践すべき具体的方策

先述の結果を踏まえ、仙北市内小中学校で共通理解の上で共通実践すべき方策を

思考を広げ、深めることのできる言語活動の充実と基礎・基本の確実な定着

とする。

また、開放された人間関係（何でも発言できる雰囲気作り）という観点から、

あいさつの励行

を継続していく。

生徒指導提要の改定に伴い、生徒指導の実践上の視点に「安全・安心な風土の醸成」が加えられたことから、「あいさつから始まる開放された人間関係」の構築を目指し、上記２つを柱として実践を行っていく。

同一中学校区での研修や研究、情報交換等による義務教育９年間の系統的・段階的な指導の更なる充実を目指すとともに、「共通で目指す子どもの姿」、「共通で取り組んでいること」を可視化するなど明確にしてその実践を継続していく。

2 学年・教科・区分・設問ごとの具体的な改善の方策

学年・教科・区分について設問ごとの結果から、改善のために検討の余地があるものについては、次の資料等を活用して、課題解決を目指す必要がある。

- 「全国学力・学習状況調査 秋田県調査結果の概要」

〈令和５年１０月 秋田県検証改善委員会〉

- 「令和５年度 全国学力・学習状況調査報告書」

【小学校国語・算数】【中学校国語・数学・英語】

- 「令和５年度 全国学力・学習状況調査【質問紙調査】報告書」

〈令和５年８月 文部科学省 国立教育政策研究所〉

- 「平成５年度　全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会」説明資料　　　【小学校国語・算数】　　　【中学校国語・数学・英語】
〈令和５年８月　国立教育政策研究所教育課程研究センター〉
- 「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力・判断力・表現力の育成に向けて～」
 【小学校版】 〈平成２２年１２月　文部科学省〉
 【中学校版】 〈平成２３年　５月　文部科学省〉
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
 〈令和２年３月　国立教育政策研究所教育課程研究センター〉

3 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について

1 地域の人材活用の仕組み作りと財政的支援

仙北市教育委員会は学校における地域人材等の活用及び特色ある取組について、一層の支援を行う必要がある。

本市教委では平成２０年度から「学校教育バックアップ事業」を開始し、市内の各小・中学校で教育支援活動をしている地域住民を「バックアップチーム」として登録し支援している。今後も小・中学校において、授業場面での活用や授業サポートとしての活用を行い、事業を充実させていく。

また、平成２５年度からは、各学校の特色ある「ふるさと教育・キャリア教育を推進する取組」や教材の充実に対し一層の財政的な支援も実施している。平成２６年８月には「キャリア教育の視点を重視したふるさと教育」指導資料として冊子「ふるさと仙北学」を発行、各校に配布した。平成２７年１２月にも同冊子を増刷し、各校に配布した。ふるさと教育を基盤とした取組の充実が児童・生徒の生きる力、地域社会における自己有用感の育成につながるようさらに働きかけていく。

さらに、学校・家庭・地域総合推進事業を立ち上げ、地域学校協働本部を設置し、順次コミュニティスクールを設置していく中で、地域人材活用の仕組み作りに取り組んでいる状況である。

2 北浦教育文化研究所研究委員会の充実について

上記Ⅳ－２の各種資料については、各学校の研修における活用とともに、研究委員会での研修内容として取り組むことが必要と考える。研究委員会の組織の見直しと併せ、各校の充実した取組に効果のある研究委員会の開催を目指す。

資料 1

「全国学力・学習状況調査」結果取扱要綱

平成19年12月20日
教育委員会告示第19号

最終改正 令和元年10月教育委員会告示第22号

(目的)

第1条 この要綱は、文部科学省が実施する「全国学力・学習状況調査」(以下「本調査」という。)の仙北市及び仙北市立小・中学校の調査結果について文部科学省から提供される情報(以下「結果」という。)の取扱について必要な事項を定めることを目的とする。

(結果の公表)

第2条 仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1) 教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2) 本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3) 本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4) 本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5) 本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

(結果の公表の内容)

第3条 文部科学省が市町村教育委員会に提供する結果の資料(別表1)について、公表に係る取扱は次の通りとする。

- (1) 「1」の公表については、国及び県の平均正答率と比較して(別表2)の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を(別表2)の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係についても併せて公表する。平均正答率の比較以外の結果は公表しない。
- (2) 「2」の公表については、「学習指導要領の領域別」「評価の観点別」「問題形式別」に国及び県の平均正答率と比較して(別表2)の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を(別表2)の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係についても併せて公表する。各設問ごとの結果の比較は公表しない。
- (3) 「別表1」の「3」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。

- (4)「別表 1」の「4」については、公表する。
- (5)「別表 1」の「5」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。
- (6)「別表 1」の「6」～「8」は公表しない。

(改善策の立案)

第 4 条 結果を受けた改善策は仙北市教育委員会北浦教育文化研究所「研究主任部会」及び「算数・数学学習指導研究委員会」、「国語学習指導研究委員会」に改善策の立案に必要な若干名の特別委員を加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1)主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2)主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3)改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4)その他

(結果の公表の方法)

第 5 条 第 3 条に示す公表の内容及び第 4 条に示す改善策は、仙北市教育委員会北浦教育文化研究所において、改善策の策定後すみやかに報告書を作成し公表する。

(情報公開)

第 6 条 仙北市情報公開条例第 7 条 6 号を根拠として第 3 条に示す公表内容以外の情報は不開示情報とする。

(その他)

第 7 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定める

附則

この告示は、平成 19 年 12 月 20 日から施行する

附則

この告示は、平成 26 年 11 月 28 日から施行する

附則

この告示は、令和元年 10 月 1 日から施行する

(別表 1)「文部科学省が市町村教育委員会に提供する資料」(第 3 条関係)

	内 容	備 考
1	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果概況	(1)棒グラフ(正答数別児童生徒の割合) (2)数値(正答数別の児童生徒数、平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差)
2	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	(1)表(「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の平均正答率) (2)表(各設問ごとの「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の正答率、無回答率)
3	各市町村域内の公立学校全体の質問紙調査の回答状況	(1)表(児童生徒質問紙の各質問の選択し別の児童生徒数、割合)(選択肢別の学校数、選択肢別の学校数の割合) (2)棒グラフ(各質問の選択肢別の児童の割合)(選択肢別の学校の割合)
4	各市町村が設置管理する学校の参加概況等	
5	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果と児童生徒質問紙調査の結果のクロス集計表	(1)表(各質問について*四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数) (2)表(各質問について*四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数の割合)
6	各学校の各教科区分別の調査結果概況	各学校に提供される情報
7	各学校の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	各学校に提供される情報
8	各学校の各児童生徒の各教科の調査・児童生徒質問紙への解答(回答)状況	各学校に提供される情報

「*四分位層」…成績の上位から 25%のきざみで 4 つのグループに分け相関の度合いを示す

(別表 2)「(別表 1) の 1 及び 2 の公表に係る階層区分と表現」(第 3 条関係)

	階層区分	表現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6% 以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6% 未満～-6% より大きい状況であるもの	おおむね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が -6% 以下であるもの	改善が必要な状況